

全体会議 会津若松アピール

われわれは、ここ会津若松において「観光地から感動地へ～地方都市の観光創造に向けて～」を大会テーマに掲げ、全国商工会議所観光振興大会2018 in 会津若松を開催した。

いま、地方都市の多くは急速な人口減少により「縮む経済」の危機に直面し、観光等による域外需要の獲得に活路を見出すべき時代に突入した。折りしも、2020年オリンピック・パラリンピック大会が目前に迫り、近年伸長してきたインバウンドの一層の増加が期待される中、それぞれの地域において、変容する観光・来訪客ニーズへの的確な対応が強く求められている。

今大会では、各地域がそれぞれの文化・歴史・風物などの地域資源を磨き上げるとともに、訪れる人々がそれを主体的に楽しみ心に残すことのできる“感動の地”へと脱皮すべきであることを提案し、賛同を得た。その実現手段として、広域連携やインバウンド対応等に係る多様な手法を常に学び実践することが不可欠であるとの認識も共有した。

本年、わが国は近代化の起点となった明治維新、戊辰戦争から150年の節目を迎えた。形や状況は違えど社会は激変し、それへの対応が急務となっている。全国の商工会議所は、「観光」という切り口から地域に秘められた力を「感動地」づくりに注ぐべく、ここに下記の事項をアピールする。

記

- ① 地域には、それぞれ歴史や生活文化、自然環境等に根ざした有形・無形の地域特性がある。訪れる人々はそこに非日常を感じ、体験し、学ぼうとしている。地域が一体となり、単なる観光地ではなく、人々の心を揺さぶる「感動地」へと歩を進めよう。
- ② 観光客の地域分散が進むよう、国には、地域の点と点をつなぐ「線」、さらには「面」へと広がる交通網の整備と体系づくりを強力に求めたい。そしてわれわれは、地域間や広域の連携により、圏域全体で来訪客の滞留時間を最大化するような観光開発、“感動の地”づくりを進めよう。
- ③ 地域における人手不足は観光産業においても例外ではない。多様化する観光ニーズに応えうる「感動の地」として進展していくため、ITやAIの活用等による生産性向上などの経営革新にも積極的に取り組もう。
- ④ “感動の地”は、安全・快適でなければならない。多発する自然災害など不測の事態に備え、訪れる人々が安心して過ごせるようにしたい。地域を挙げた防災対策はもちろんのこと、万一の際に来訪客に確実に情報が届く仕組みと救援方策を構築しよう。